

日本調剤・自主企画調査

花粉症経験者に聞いた『花粉症の実態と対策』

約 4 割の人は花粉症で「病院に行かない」、行かない理由は“我慢できる”、“面倒”
半数以上の人、花粉症を発症してから治療薬を使う
治療薬に対して満足している人は 54.5%、半数近くは満足感を得ていない

全国 47 都道府県で調剤薬局を展開する日本調剤株式会社(本社:東京都千代田区丸の内、代表者:取締役社長 三津原 博)は、自主企画調査『花粉症の実態と対策』調査を実施しました。

本調査は、これまでに花粉症と自覚・診断されたことがある花粉症経験者・全国の 20 代～70 代以上の男女 1,198 人を対象に、2015 年 1 月 16 日～19 日の期間にインターネット調査で実施し、その結果をまとめました。

※花粉症は、スギやヒノキなどの植物の花粉(抗原)が原因となって起こるアレルギー疾患の一つです。



調査結果のポイント

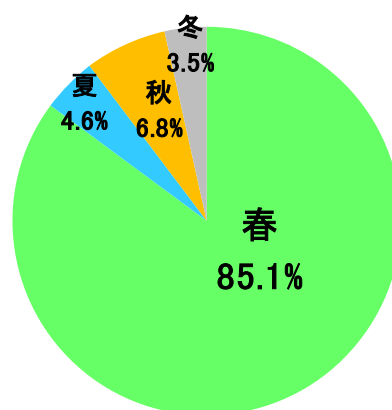
日本気象協会の発表によると 2015 年春の花粉シーズンは西日本と東日本では例年より早くスタートし、東海から東北地方にかけては飛散数が昨年の 2 倍以上になるところもありそうです。

そこで、春の花粉症シーズンに先駆け、全国の花粉症経験者 1,198 人に花粉症の実態と対策を聞いた結果、以下のことがわかりました。

1. 花粉によるアレルギー症状の原因となる植物の花粉は一年中飛散しているが、どの季節に一番花粉症の症状がひどいか聞いたところ、圧倒的に春(3 月～5 月)が多く、85.1%の人が春に花粉症を発症している。

【花粉症の症状がひどい季節(単数回答)】

n=1198

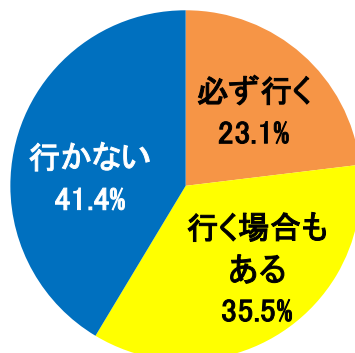


2. 花粉症で起こる症状のトップ 3 は、「目のかゆみ」(80.6%)、「くしゃみ」(72.6%)、「鼻づまり」(66.4%)。

3. 花粉症の治療で病院に行く人は、約6割(「必ず行く」23.1%+「行く場合もある」35.5%)。『病院に行く』割合が最も高いのは女性 70 代以上。一方、約 4 割の人は『病院に行かない』(41.4%)。

【花粉症の治療で病院に行くか(単数回答)】

n=1198



4. 『病院に行く』人が 1 回の診察費や治療薬費でかかった費用は、「1000～2000 円未満」が最も多く 36.2%。男女とも 70 代以上の後期高齢者では「1000 円未満」が最も多い。
5. 『病院に行かない』人の行かない理由は、「我慢できる程度だから」(44.6%)、「面倒だから」(33.5%)。

【病院に行かない人の「行かない理由」(複数回答)】

	回答者数	%
TOTAL	496	100.0
病院に行く時間がないから	69	13.9
市販薬で十分だと思うから	138	27.8
毎年のことで病気ではないと思うから	131	26.4
病院に行っても完治するわけではないから	143	28.8
我慢できる程度だから	221	44.6
お金がかかるから	93	18.8
面倒だから	166	33.5
薬の副作用があるから	32	6.5
その他	12	2.4

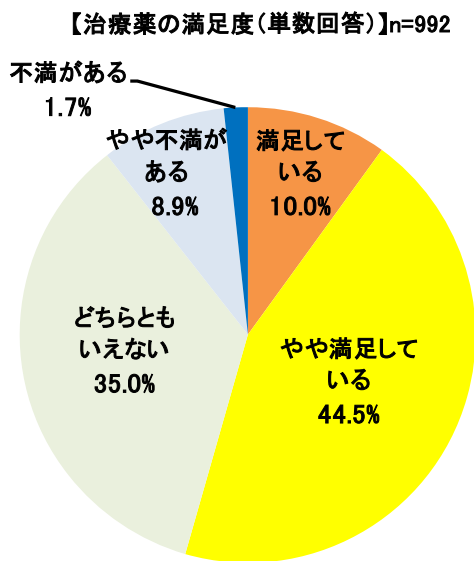
6. 花粉症の治療薬を使用するタイミングは、内服薬、外用薬ともに「花粉症の症状が出てから使用する」(内服薬:29.6%、外用薬:38.0%)、「症状がひどい時だけ使用する」(内服薬:24.1%、外用薬:23.5%)となり、半数以上の方は花粉症が発症してから使用している。また、治療薬を使わない人も 4 分の 1 以上存在。

【花粉症の治療薬を使用するタイミング(単数回答)】

(上段:回答者数+下段:%)

	TOTAL	花粉症の症状が出る前から使用し始める	花粉症の症状が出てから使用する	花粉症の症状がひどい時だけ使用する	その他	花粉症の治療薬は使用しない
内服薬	1198	235	355	289	5	314
	100.0	19.6	29.6	24.1	0.4	26.2
外用薬 (点眼薬・点鼻薬・軟膏など)	1198	134	455	282	7	320
	100.0	11.2	38.0	23.5	0.6	26.7

- 治療薬による影響は、内服薬は「特に影響はない」が最も多く 42.8%。次いで「眠気」(36.8%)、「口や目の渇き」(26.6%)、「ボーッとすると集中力の低下」(24.7%)
- 治療薬を使用している人の治療薬への満足度は、「満足している」人が 10.0%、「やや満足している」人は 44.5%となったが、半数近くの人には治療薬に満足感を得ていない。



- 治療薬を使用している人の約7割の人が、治療薬の影響が出た場合は医師や薬剤師に相談する(「必ず相談する」24.2%+「相談することもある」43.8%)。最も相談する人が多いのは女性 40 代(83.0%)。

【治療薬の影響に対する、医師や薬剤師への相談(単数回答)】

	回答者数	%
TOTAL	992	100.0
必ず相談する	240	24.2
相談することもある	434	43.8
まったく相談しない	157	15.8
わからない	161	16.2

- 治療薬以外に行っている花粉症対策は、まずは、花粉が体に入ってくるのを予防する基本的な「マスクをする」(70.2%)、「うがい・手洗いをする」(49.3%)が上位を占めた。

◆調査の詳細は、5 ページ目からの「調査結果」をご参照ください。

薬剤師からのアドバイス

◇お薬以外の花粉症対策

花粉症の対策としては、今回の結果にもあるように「マスク」「うがい・手洗い」が有効です。外出する際には気象情報や花粉情報等を確認し、帽子やメガネ、マスクなど完全防備で出かけましょう。また、帰宅時は衣服などについた花粉をきちんと払ってから家に入り、手洗いとうがいで花粉を洗い流すことが大事です。

また、「規則正しい生活」、「栄養バランスのとれた食事」、「ストレスをためない」、「適度な運動」など生活習慣を改善することで、体の免疫力を高めることも大切です。

◇花粉症治療薬について

花粉症の治療薬には様々なタイプがあります。抗ヒスタミン薬は効果発現も早く、古くからよく使われている薬ですが、中には「眠気」や「口の渇き」などの影響が出るものがあります。同じ抗ヒスタミン薬でもこれらの影

響が少ない薬もありますし、他のタイプの薬もありますので、気になる影響がある場合には、医師や薬剤師にご相談ください。

◇初期療法で、症状が出る前に対策を

花粉症などのアレルギーは、症状が悪化してからでは薬が効きにくくなります。そこで、毎年、花粉が飛び始める2週間くらい前から症状を抑えるために薬を飲んでおくことで、花粉の飛散量が多くなって現れる症状を軽くすることができます。

◇現在、花粉症治療には様々な選択肢があります

昨年10月にはスギ花粉症の減感作療法薬(舌下液)が発売され、治療の幅がさらに広がりました。今回の調査では、治療満足度において「やや満足」以上が54.5%に留まり、約半数の人が治療薬に満足感を得ていないことが分かりました。治療薬には前述のように様々な選択肢がありますので、効果や安全面で問題がある場合には医師や薬剤師に相談することをお勧めします。

(監修:日本調剤 教育情報部)

【調査概要】

調査方法:インターネット調査

調査地域:全国

調査対象者:花粉症と自覚・診断されたことがある花粉症経験者 20代～70代以上の男女 1,198人

サンプル構成: 全体 1,198 男性 593 女性 605

20～29歳(全体 194 男性 90 女性 104)

30～39歳(全体 214 男性 109 女性 105)

40～49歳(全体 200 男性 95 女性 105)

50～59歳(全体 205 男性 101 女性 104)

60～69歳(全体 197 男性 101 女性 96)

70～99歳(全体 188 男性 97 女性 91)

調査手法:インターネット調査

調査期間:2015年1月16日(金)～1月19日(月)

調査企画・分析:日本調剤株式会社

調査実施機関:株式会社インテージ

※グラフのパーセンテージは四捨五入されているため合計値が100にならないものもございます。

【日本調剤株式会社】 <http://www.nicho.co.jp/>

1980(昭和55)年の創業以来、一貫して国の健康保険制度を支える調剤薬局のあるべき機能・役割を全うすべく「医薬分業」を追求し、調剤薬局展開を積極的に行っている。現在では、全都道府県に調剤薬局を展開し、約2,400人の薬剤師を有する日本を代表する調剤薬局企業として評価を得るとともに、超高齢社会に必要とされる“調剤薬局の新しい姿”を追い求めて、取り組んでいる。

【調査結果詳細】 花粉症経験者に聞いた『花粉症の実態と対策』

Q1 春夏秋冬のうちで、花粉症の症状が一番ひどい季節はいつですか。(回答は1つ)

花粉によるアレルギー症状の原因となる植物の花粉は一年中飛散している。そこで、花粉症経験者がどの季節に一番花粉症の症状がひどいかを聞いたところ、圧倒的に春(3月～5月)が多く85.1%の人が春に花粉症を発症している。

[表 1]花粉症の症状がひどい季節(単数回答)

	回答者数	%
TOTAL	1198	100.0
春(3月～5月)	1019	85.1
夏(6月～8月)	55	4.6
秋(9月～11月)	82	6.8
冬(12月～2月)	42	3.5

Q2 花粉症の症状としては、どのような症状がありますか。(回答はいくつでも)

花粉症で起こる症状のトップ5は、1位「目のかゆみ」(80.6%)、2位「くしゃみ」(72.6%)、3位「鼻づまり」(66.4%)、4位「水っぱな」(49.7%)、5位「鼻のかゆみ」(47.1%)となった。

[表 2]花粉症の症状(複数回答)

	回答者数	%
TOTAL	1198	100.0
目のかゆみ	966	80.6
くしゃみ	870	72.6
鼻づまり	795	66.4
水っぱな	596	49.7
鼻のかゆみ	564	47.1
頭がボーッとする	311	26.0
涙目	308	25.7
目の充血	287	24.0
のどの痛み・かゆみ	267	22.3
頭痛	170	14.2
皮膚のかゆみ	165	13.8
目やにが出る	154	12.9
倦怠感	137	11.4
咳	123	10.3
肌荒れ	123	10.3
眠気	91	7.6
発熱	37	3.1
その他	10	0.8

Q3 花粉症の治療には、病院に行きますか。(回答は1つ)

※病院には、病院、診療所、クリニックなどを含む医療機関全般でお答えください。

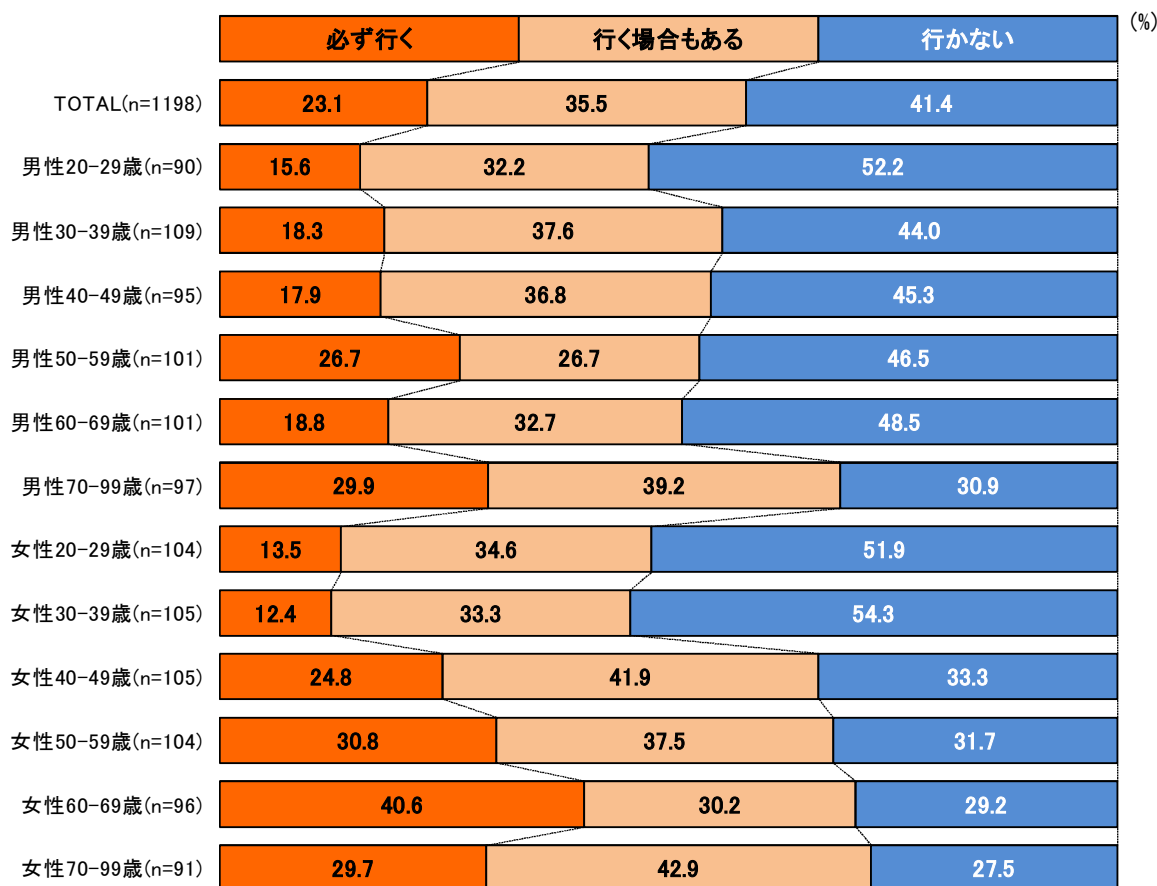
花粉症の治療で病院に行くかを聞いた結果、「必ず行く」は23.1%、「行く場合もある」も35.5%となり、6割近い人は花粉症で病院に行く模様。

性年代別でみると、最も『病院に行く(必ず行く+行く場合もある)』割合が高いのは、女性70代以上で72.6%。次いで女性60代70.8%、女性50代68.3%となった。一方、『病院に行かない』割合が最も高いのは女性30代で54.3%と半数以上が行かない。

[表3]花粉症の治療で病院に行くか(単数回答)

	回答者数	%
TOTAL	1198	100.0
必ず行く	277	23.1
行く場合もある	425	35.5
行かない	496	41.4

[図3]性年代別:花粉症の治療で病院に行くか(単数回答)



Q4 花粉症治療で病院に行った場合、診察費・治療薬費の自己負担は1回でいくぐらいかかりますか。

(回答は1つ)

※病院には、病院、診療所、クリニックなどを含む医療機関全般でお答えください。

※治療薬は、内服薬及び点眼薬、点鼻薬、軟膏などの外用薬を含めてお答えください。

※治療薬費は、調剤薬局での費用も含めてお答えください。

【回答者: Q3で「病院に行く」と回答した人】

花粉症治療で『病院に行く』と回答した人が1回の診察費や治療薬費でかかった費用は、「1000～2000円未満」が最も多く36.2%、次いで「2000～3000円未満」31.1%。男女とも70代以上の高齢者では「1000円未満」が最も多い。

[表 4-1] 病院での花粉症治療費(単数回答)

	回答者数	%
TOTAL	702	100.0
1000円未満	117	16.7
1000円～2000円未満	254	36.2
2000円～3000円未満	218	31.1
3000円～4000円未満	74	10.5
4000円～5000円未満	23	3.3
5000円～6000円未満	11	1.6
6000円～7000円未満	2	0.3
7000円～8000円未満	1	0.1
8000円～9000円未満	1	0.1
9000円～10000円未満	0	0.0
10000円以上	1	0.1

[表 4-2] 性年代別: 病院での花粉症治療費(単数回答)

	回答者数	1000円未満	1000円～2000円未満	2000円～3000円未満	3000円～4000円未満	4000円～5000円未満	5000円～6000円未満	6000円～7000円未満	7000円～8000円未満	8000円～9000円未満	9000円～10000円未満	10000円以上
TOTAL	702	16.7	36.2	31.1	10.5	3.3	1.6	0.3	0.1	0.1	0.0	0.1
男性20-29歳	43	2.3	48.8	32.6	11.6	2.3	2.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
男性30-39歳	61	8.2	34.4	42.6	3.3	9.8	1.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
男性40-49歳	52	11.5	44.2	26.9	13.5	1.9	0.0	1.9	0.0	0.0	0.0	0.0
男性50-59歳	54	13.0	27.8	40.7	13.0	1.9	1.9	0.0	0.0	0.0	0.0	1.9
男性60-69歳	52	7.7	40.4	32.7	11.5	1.9	5.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
男性70-99歳	67	46.3	31.3	10.4	7.5	4.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
女性20-29歳	50	16.0	42.0	28.0	10.0	4.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
女性30-39歳	48	10.4	37.5	37.5	12.5	0.0	0.0	0.0	2.1	0.0	0.0	0.0
女性40-49歳	70	7.1	34.3	32.9	15.7	5.7	2.9	0.0	0.0	1.4	0.0	0.0
女性50-59歳	71	5.6	35.2	42.3	14.1	2.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
女性60-69歳	68	17.6	27.9	36.8	13.2	2.9	0.0	1.5	0.0	0.0	0.0	0.0
女性70-99歳	66	43.9	37.9	12.1	1.5	0.0	4.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

Q5 花粉症治療で病院に行かない理由はなんですか。(回答はいくつでも)

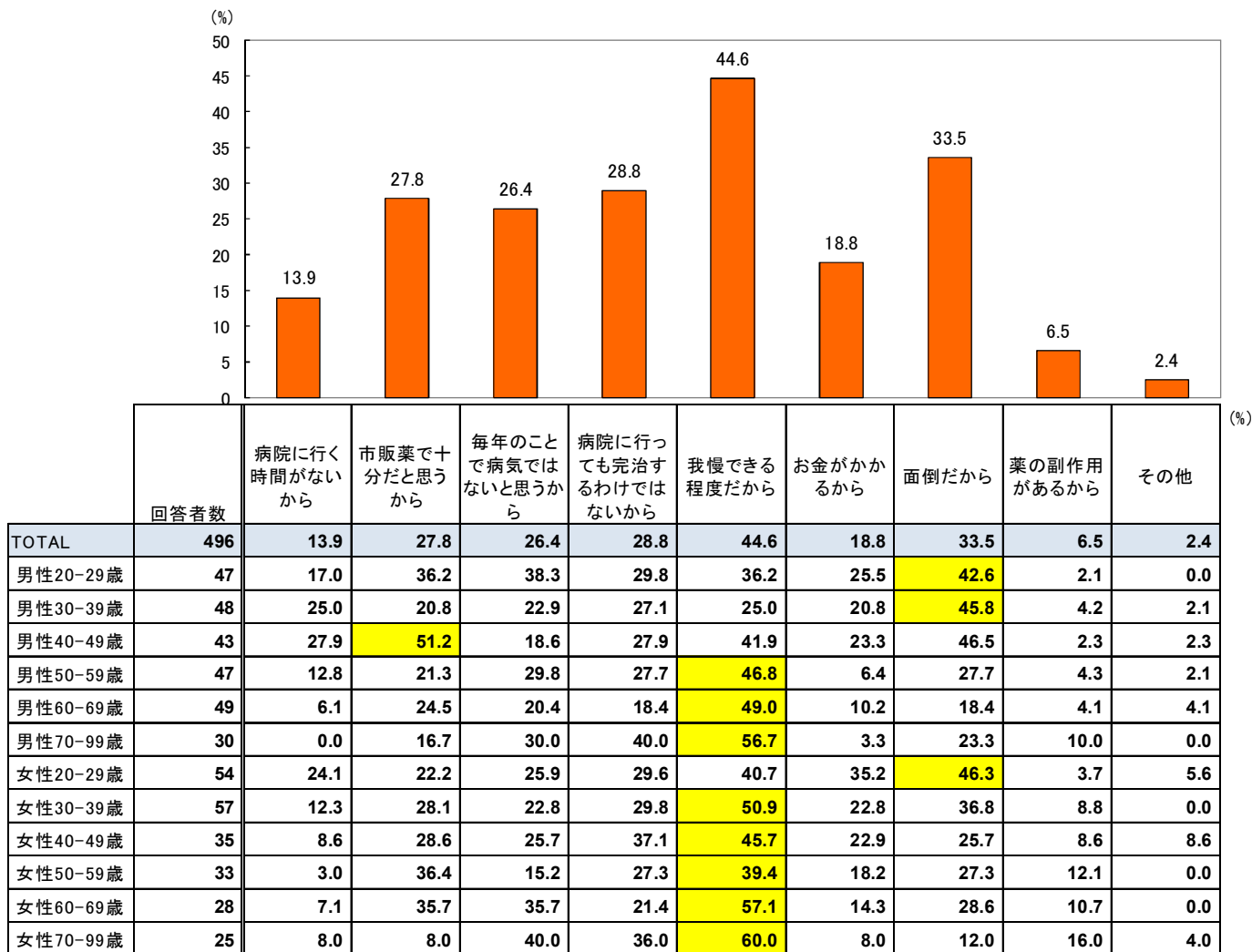
※病院には、病院、診療所、クリニックなどを含む医療機関全般でお答えください。

【回答者: Q3で「病院に行かない」と回答した人】

花粉症治療に『病院に行かない』と回答した人の行かない理由で最も多いのは、「我慢できる程度だから」44.6%。次いで「面倒だから」(33.5%)、「病院に行っても完治するわけではないから」(28.8%)であった。

性年代別でみると、男性20代・30代と女性20代の若い世代は「面倒だから」という理由が最も高い。

【図5】性年代別：病院に行かない人の「行かない理由」(複数回答)



Q6 花粉症の治療薬(処方薬、市販薬を含む)を使用する場合、いつごろから使用しますか。(回答は1つ)

花粉症の治療薬を使用する人が、どのタイミングで使用するのかを聞いたところ、内服薬、外用薬ともに「花粉症の症状が出てから使用する」人が最も多く、内服薬は29.6%、外用薬では38.0%となった。次に多いタイミングは「花粉症の症状がひどい時だけ使用する」(内服薬:24.1%、外用薬:23.5%)で、症状が出てから治療薬を使用している人が半数以上となった。また、治療薬を使わない人も1/4以上存在。

[表 6] 花粉症の治療薬を使用するタイミング(単数回答)

(上段:回答者数+下段:%)

	TOTAL	花粉症の症状が出る前から使用し始める	花粉症の症状が出てから使用する	花粉症の症状がひどい時だけ使用する	その他	花粉症の治療薬は使用しない
内服薬	1198	235	355	289	5	314
	100.0	19.6	29.6	24.1	0.4	26.2
外用薬 (点眼薬・点鼻薬・軟膏など)	1198	134	455	282	7	320
	100.0	11.2	38.0	23.5	0.6	26.7

Q7 花粉症の治療薬(処方薬、市販薬を含む)を使用した場合、どのような影響がありますか。(回答はいくつでも)

【回答者:Q6で内服薬・外用薬をそれぞれ「治療薬は使用しない」と回答した人除く】

治療薬によりどのような影響が出るかを聞いた、内服薬は「特に影響はない」が最も多く42.8%。次いで「眠気」(36.8%)、「口や目の渇き」(26.6%)、「ボーとする・集中力の低下」(24.7%)

外用薬では、8割以上が「特に影響はない」(81.7%)。

[表 7] 花粉症治療薬の影響(複数回答)

(上段:回答者数+下段:%)

	TOTAL	眠気	ボーッと する・ 集中力の 低下	判断力の 低下	倦怠感	口や目の 渇き	その他	特に影響 はない
内服薬	884	325	218	78	82	235	9	378
	100.0	36.8	24.7	8.8	9.3	26.6	1.0	42.8
外用薬 (点眼薬・点鼻薬・軟膏など)	878	57	52	21	26	78	5	717
	100.0	6.5	5.9	2.4	3.0	8.9	0.6	81.7

Q8 使用している治療薬(処方薬、市販薬を含む)には満足していますか。(回答は1つ)

※治療薬は、内服薬及び点眼薬、点鼻薬、軟膏などの外用薬を含めて、治療薬全体についてお答えください。

【回答者:Q6で内服薬・外用薬のいずれかを「使用している」と回答した人】

使用している治療薬に対して、「満足している」人は10.0%、「やや満足している」人が44.5%となったが、半数近くの方は治療薬に満足感を得ていない模様。

[表 8] 治療薬の満足度(単数回答)

	回答者数	%
TOTAL	992	100.0
満足している	100	10.0
やや満足している	440	44.5
どちらともいえない	347	35.0
やや不満がある	88	8.8
不満がある	17	1.7

Q9 花粉症の治療薬を使用して何らかの影響が出た場合、医師や薬剤師に相談しますか。(回答は1つ)

※治療薬は、内服薬及び点眼薬、点鼻薬、軟膏などの外用薬を含めてお答えください。
 ※これまで薬の影響が出たことがない方は、影響が出た場合を想定してお答えください。

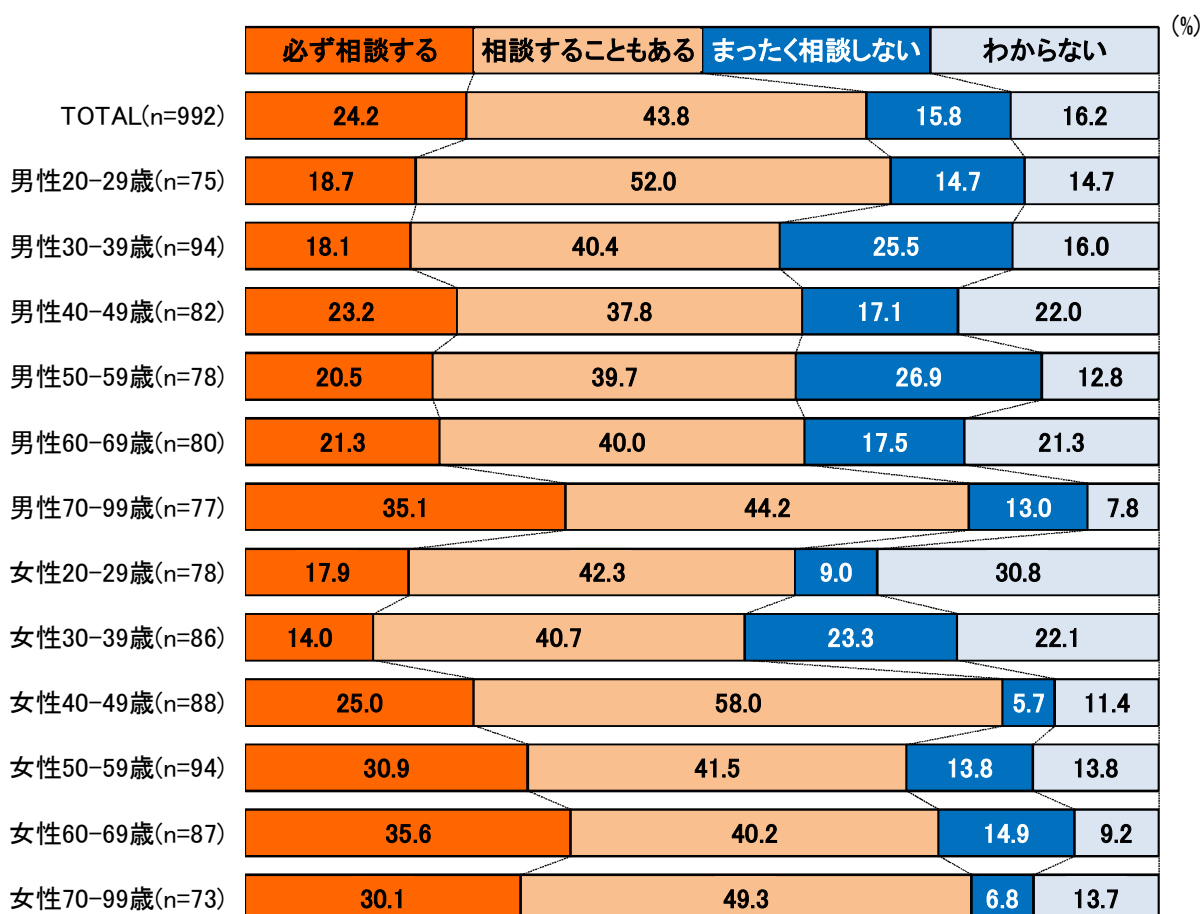
【回答者:Q6で内服薬・外用薬のいずれかを「使用している」と回答した人】

花粉症の治療薬で影響が出た場合、医師や薬剤師に相談するかを聞いたところ、「必ず相談する」人が24.2%、「相談することもある」は43.8%となり、約7割の人が相談する模様。

性年代別でみると、相談する(「必ず相談する」+「相談することもある」)人が最も多いのは女性40代で83.0%、次いで女性70代以上(79.4%)、男性70代以上(79.3%)、女性60代(75.8%)の順。

一方、「まったく相談しない」人が最も多いのは、男性50代で26.9%。次いで、男性30代(25.5%)、女性30代(23.3%)であった。

〔図9〕性年代別：治療薬の影響に対する、医師や薬剤師への相談(単数回答)



Q10 花粉症対策として、治療薬の使用以外で日ごろから行っている対策はありますか。主に行っている対策を3つまでお答えください。(回答は3つまで)

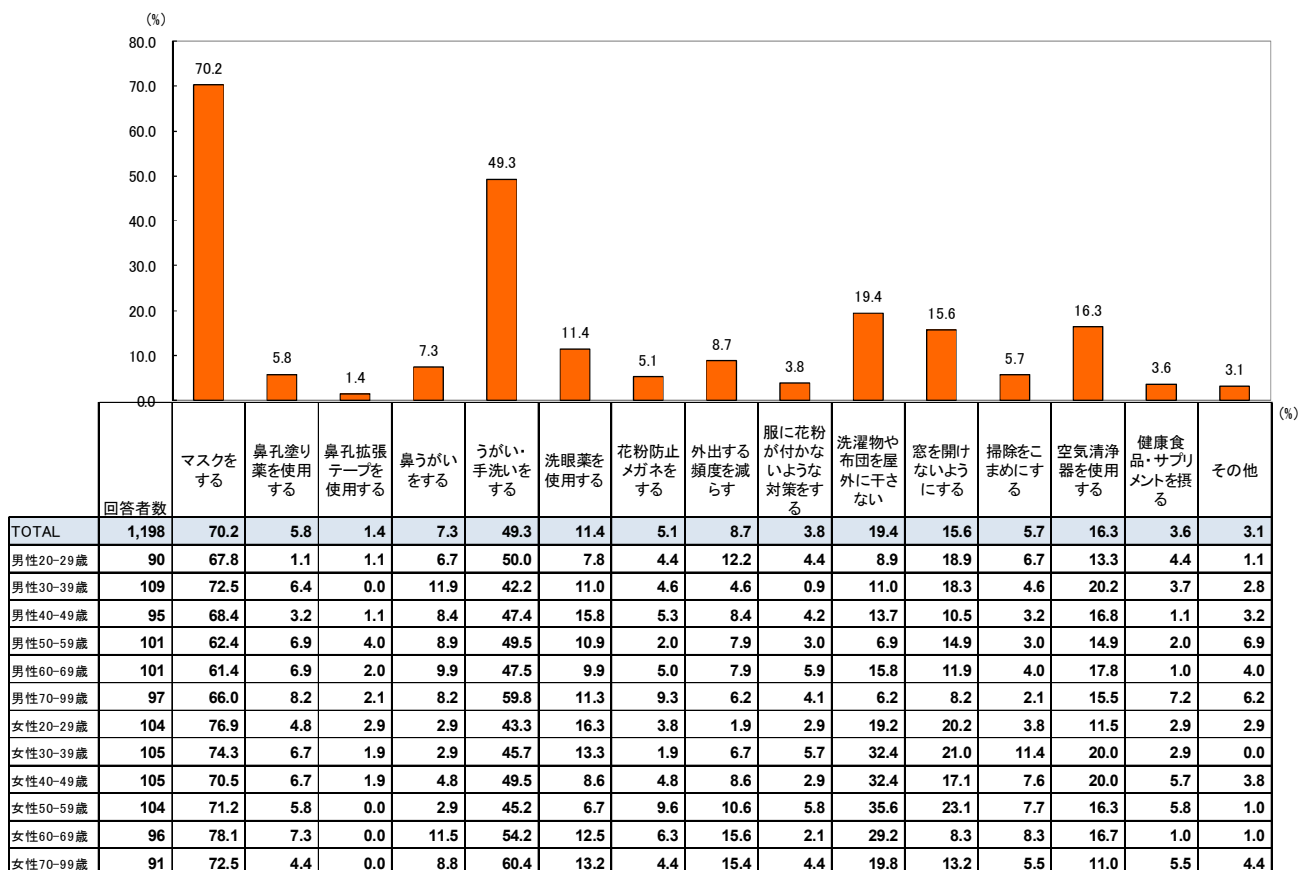
花粉症対策で治療薬の使用以外に行っている対策を聞いた結果。最も多いのは「マスクをする」で70.2%、次いで「うがい・手洗いをする」(49.3%)、「洗濯物や布団を屋外に干さない」(19.4%)、「窓を開けないようにする」(15.6%)であった。

性年代別でも対策方法に大きな違いはなく、やはり、まずは花粉が体に入らないように、マスク、うがい・手洗いが基本的な対策なのだろう。

[表 10] 治療薬以外の花粉症対策(回答は3つまで)

	回答者数	%
TOTAL	1198	100.0
マスクをする	841	70.2
鼻孔塗り薬を使用する	69	5.8
鼻孔拡張テープを使用する	17	1.4
鼻うがいをする	87	7.3
うがい・手洗いをする	591	49.3
洗眼薬を使用する	137	11.4
花粉防止メガネをする	61	5.1
外出する頻度を減らす	104	8.7
服に花粉が付かないような対策をする	46	3.8
洗濯物や布団を屋外に干さない	233	19.4
窓を開けないようにする	187	15.6
掃除をこまめにする	68	5.7
空気清浄器を使用する	195	16.3
健康食品・サプリメントを摂る	43	3.6
その他	37	3.1

[図 10] 性年代別: 治療薬以外の花粉症対策(回答は3つまで)



【本件に関するお問い合わせ】

日本調剤株式会社 広報部 広報担当

TEL:03-6810-0826 FAX:03-3201-1510

E-Mail:pr-info@nicho.co.jp